

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 4. 子育てと子どもの成長を支える環境の充実

(基本施策) (1) 子どもたちの豊かな学びと成長

(評価担当者)

教育部長

草川 吉次

基本施策が目指す姿

子どもたちが、将来の自立につながる生きる力を身に付けています。

関連する分野別計画

亀山市学校教育ビジョン

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	コミュニティ・スクール実施校数	校	3	H28	3	6				8
2	普通教室等への空調機設置率(小)	%	36.2	H28	44.3	49.7				100
3	普通教室等への空調機設置率(中)	%	50.0	H28	50.9	100.0				100
4	普通教室等への空調機設置率(幼)	%	25.0	H28	25.0	25.0				100
5	学校評価アンケートにおける授業理解度(小)	%	88	H27	88.7	88.6				92
6	学校評価アンケートにおける授業理解度(中)	%	83	H27	80.3	81				85
7	学校評価アンケートにおける学校満足度(小)	%	91	H27	91.5	91				92
8	学校評価アンケートにおける学校満足度(中)	%	91	H27	88.3	83.9				92

市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	小中学校の施設や設備が整っている	重要度	1.44	1.38	小中学校の施設や設備が整っている。学校教育の内容や取組が充実している。青少年を見守り応援する活動が行われている。のいずれも重要度は若干減少しているものの、満足度は3項目とも上昇している。これは、空調機整備を含めた学校施設の計画的な整備やコミュニティスクール、放課後子ども教室、愛の運動の取り組みを通して、開かれた学校運営が浸透しつつあると考える。
		満足度	0.40	0.43	
2	学校教育の内容や取組が充実している	重要度	1.50	1.41	
		満足度	0.05	0.29	
3	青少年を見守り応援する活動が行われている	重要度	1.44	1.39	
		満足度	0.39	0.55	
4		重要度			
		満足度			
5		重要度			
		満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	「地域とともにある学校づくり」では、コミュニティ・スクール認定校が順調に増えている。「学びの環境の充実」においては、川崎小学校改築事業及び普通教室空調機整備事業(中学校)が完了した。また、普通教室空調機整備事業(小学校)については工事設計を年度内に実施し、工事も早期に完了できる見通しであり、計画的な学校施設の環境整備を進めることができた。また、「子どもたちの育ちのための学びの展開」では、外国語指導助手配置事業や学校図書館支援事業、情報教育推進事業等を、「すべての子どもの学びを支える教育の推進」においては、個の学び支援事業や少人数教育推進事業により、着実に事業の推進を図ることができた。特に、書く力の育成の取組の成果が国語における学力・学習状況調査結果にも表れ始めている。これらのことから、まずまず進んでいる。
反省点・課題	
<p>成果指標に掲げる授業理解度や学校満足度は現状値に比べ、伸び悩んでおり、特に中学校の学校満足度が減少傾向にある。多様な支援を必要とする児童生徒が増加する中、学習生活両面において個々の能力や状況を十分踏まえ、さらにきめ細やかな教育を推進することが今後必要である。</p> <p>見守り活動や体験機会の提供など地域全体で子どもの育みを支える「地域における子どもの居場所づくり」として、「『亀山っ子』市民宣言」を掲げ展開しているが、市内の様々な実施団体の取組みへの定着が必要である。</p>	

今後の展開方針

引き続き、市全体または各学校における学力定着状況を分析し、各校における学力向上の取組みの確実な実践を促し、授業改善の進捗状況を把握する。また、これまでの取組みを振り返り、次期学力向上推進計画を策定する。さらに、亀山市の特色でもある少人数による児童生徒へのきめ細やかな指導の継続や、国または県の学力向上に係る事業の積極的活用を通して、児童生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図るとともに、魅力ある学校づくりにおいて小中連携を進める。

「『亀山っ子』市民宣言」に加えて、子育て家庭を核とした子どもの居場所創出に向けて「かめやまお茶の間10選(実践)」の具現化を進めていく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		地域とともにある学校づくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	各校で地域と連携した行事や交流を進めた。学校運営協議会等を通じて地域との連携・協働による教育力の向上を図った。CS(コミュニティ・スクール)認定校の拡大に向け、準備校を設定し、視察や講師招聘による研修を進めた。地域と連携した防犯研修会、体験型防災学習や訓練を実施した。各校で総括評価を実施、次年度への取組課題等を明らかにした。		各校において、地域資源を生かした特色ある教育活動や地域と連携・協働した学校運営が継続されている。CS(コミュニティ・スクール)については、平成30年度新たに3校がCS認定校となり、合計6校となった。また、令和元年度導入に向け3校が準備に入り、令和元年度CS認定校は9校(目標値達成)に、さらに令和2年度導入に向けて3校が準備に入る見込みである。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19148	特色ある学校づくり事業(小学校費)		標	2,977 / 2,828	A	A
	19149	特色ある学校づくり事業(中学校費)		標	609 / 580	A	A
	19182	コミュニティスクール推進事業		標	298 / 202	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果
	学校関係者評価を生かした各学校の総括評価の実施					A	A
	家庭や地域等と連携した防災訓練や各校の危機管理マニュアルの見直し					A	A

施策の方向		学びの環境の充実					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	子どもたちが安全で快適な学校生活を送ることができるよう、川崎小学校改築事業、普通教室等空調機整備事業を進めるとともに、各施設の状況に応じた整備を実施した。 普通教室等空調機整備事業については、中学校における事業を完了し、小学校においても事業の前倒しにより、工事契約の締結を行った。		川崎小学校改築事業が完了し、安全管理やバリアフリー面における課題の解決ができた。 また、小学校における普通教室等空調機整備事業は、工事契約締結により、次年度夏季における空調機の使用が可能となる見込みである。 これら及び他事業の実施により、学びの環境整備を着実に進めることができた。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17068	川崎小学校改築事業		主	853,991 / 758,728	A	A
	17069	幼稚園保育室等空調機整備事業		主	2,000 / 972	A	A
	17070	普通教室等空調機整備事業(小学校)		主	10,478 / 8,024	A	A
	17071	普通教室等空調機整備事業(中学校)		主	48,352 / 48,352	A	A
	17072	中学校給食実施事業		主	40,348 / 39,267	A	B
	19008	施設整備費(小学校費)		標	22,561 / 22,561	A	A
	19027	施設整備費(中学校費)		標	12,678 / 12,677	A	A
	19043	施設整備費(幼稚園費)		標	1,674 / 1,674	A	A
	19273	地場農畜産物利用推進事業		標	303 / 265	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果
	三重県建設労働組合亀山支部の支援による学校施設整備					A	A
	通学路交通安全プログラムによる通学路点検					A	A

施策の方向		子どもたちの育ちのための学びの展開					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	ALTを5名配置し、全小学校3~6年において英語科・英語活動の先行実施を行うとともに英語デイキャンプを実施した。指導者用タブレットを236台導入、授業での活用を図った。学力定着状況を分析し、授業改善や問題テ-タベ-ス活用を通じて学力定着を図った。次年度に向け、小中連携強化を柱とする教育研究体制の見直しや市内教職員の研修方針を策定した。		小中学校児童生徒の授業理解度はほぼ横ばいの状況である。書く力を軸とした学力向上の取組が各校に浸透しつつある。児童生徒の年間図書貸出冊数は83.4冊へと増加し、読書習慣の定着が進んだ。特別の教科道徳や人権教育等の取り組みにより児童生徒の自己肯定感が高まりつつある。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17073	外国語指導助手配置事業		主	25,909 / 23,375	A	B
	17074	情報教育推進事業(小学校)		主	24,716 / 22,825	A	B
	17075	情報教育推進事業(中学校)		主	13,090 / 10,533	A	B
	17076	学校図書館支援事業		主	11,993 / 11,740	A	A
	17077	学力向上推進事業		主	4,768 / 4,392	A	B
	19015	体育・文化活動支援事業(小学校費)		標	1,939 / 1,439	A	A
	19030	体育・文化活動支援事業(中学校費)		標	466 / 242	A	A
	19033	中学校体験活動支援事業		標	543 / 524	A	A
	19105	幼児教育推進事業		標	2,009 / 1,652	A	A
	19106	教職員研修事業		標	1,490 / 1,051	A	B
	19271	道徳・人権教育推進事業		標	585 / 415	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果
	カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究(英語、国語)や英語デイキャンプの実施					A	A
	次年度に向けた亀山市教育研究体制の見直しと亀山市教育関係職員の研修方針の策定					A	B

施策の方向 家庭・地域の教育力の向上									
(個別判定)	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】						
B まずはまず進んでいる	活動	基本的な生活習慣の確立、自己肯定感の向上を軸とした家庭教育出前講座開催や食育リーフレット類の作成配布を行うとともに、訪問型家庭教育支援の在り方についての方向性を転換した取り組みとして子育て家庭に向けた応援メッセージの策定の検討を社会教育委員会において行った。	評価	基本的な生活習慣や自己肯定感確立についての意識啓発は進められたが、参加者と非参加者の両極化の傾向が見られ、開催の積み上げによって少しずつ意識醸成を図っていく必要がある。					
				関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動
				19132	子育て学習展開事業	標	1,215 / 1,013	B	B
事業以外の取組	内容						活動	成果	

施策の方向 すべての子どもの学びを支える教育の推進									
(個別判定)	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】						
B まずはまず進んでいる	活動	小中学校に介助員35人、学習生活相談員10人、生活支援員2人に加え、医療的ケア対応の看護師1人を新規配置。SCやSSW、外国人児童生徒支援員等を継続配置。少人数教育推進教員を9人配置。部活動充実に向け、部活動指導員を新規2名配置。通級指導教室増設に伴い学習環境整備を行った。学習教室136回開催。Q-U分析を仲間作りに生かした。	評価	個に応じたきめ細やかな支援により、児童生徒の心の安定を図り、落ち着いた学校生活を実現している。様々な事例に対して、必要に応じて学校と関係機関が連携し、情報共有しながら、児童生徒や保護者への支援や指導助言を行っている。学級満足度は、小中学校とも若干下がっている。いじめ認知件数は減少したが、不登校児童生徒数は増加傾向にある。					
				関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動
				17078	個の学び支援事業(幼稚園)	主	12,510 / 11,300	A	B
				17079	個の学び支援事業(小学校)	主	56,380 / 54,702	A	A
				17080	個の学び支援事業(中学校)	主	13,110 / 12,292	A	A
				17081	少人数教育推進事業	主	27,931 / 27,219	A	A
				17082	生活困窮者自立支援事業(学習支援事業)	主	3,787 / 2,417	B	B
				19259	特別支援教育推進事業	標	323 / 303	A	A
				19116	生徒指導充実事業	標	1,605 / 1,491	A	B
				19111	適応指導教室事業	標	3,128 / 3,041	A	B
				19286	外国人児童生徒教育支援事業	標	3,080 / 3,003	A	B
事業以外の取組	内容						活動	成果	
	部活動指導員の配置						A	A	
						A	A		

施策の方向 青少年の健全育成と青少年活動の促進									
(個別判定)	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】						
B まずはまず進んでいる	活動	第2次「『亀山っ子』市民宣言」具現化行動計画の最終年度として、「愛の運動」やサマーキャンプの開催など実践を通じて、地域で子どもを育む意識醸成を図る取り組みを進め、第3次具現化行動計画について青少年育成市民会議と調整した。また、青少年総合支援センターにおいて、登下校防犯プランに即してパトロールコースなどの修正を行った。	評価	「地域の子どもは地域で育む」という意識醸成が進み、「『亀山っ子』市民宣言」の具現化行動計画の実践が増加などの一定の成果を得た。青少年の居場所づくりの方策として、子育て家庭に向けた応援メッセージの作成と併せて今後の展開を構築していく必要がある。					
				関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動
				19099	青少年健全育成費	標	4,811 / 4,445	A	A
				19100	青少年総合支援センター費	標	14,929 / 14,012	A	A
				19101	成人式開催費	標	596 / 521	A	A
				19289	青少年自立支援事業	標	4,068 / 3,978	A	A
事業以外の取組	内容						活動	成果	